

保育者養成校における音楽表現の意義

—学生意識調査の考察—

櫻井かおる・松嶋 瞳

Significance of Musical Representation in Schools for Training of Nursery
Teachers : Consideration of students' consciousness survey

Kaoru Sakurai, Hitomi Matsushima

豊岡短期大学 論集

第 15 号 別 冊

平成 31 年 3 月 31 日 発 行

保育者養成校における音楽表現の意義

—学生意識調査の考察—

Significance of Musical Representation in Schools for
Training of Nursery Teachers : Consideration of students'
consciousness survey

櫻井 かおる 松嶋 瞳
Kaoru Sakurai, Hitomi Matsushima

はじめに

厚生労働省の「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」において、領域「表現」に関する内容が「保育内容演習」「保育内容の理解と方法」に記載されている。『『保育内容演習』＜内容＞（２）－⑤『表現』感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする』¹⁾とある。

本校の教育課程においては領域「表現」に関する科目として、「造形」のほか、「ピアノ」（個人実技レッスン）、「こどもとリズム表現」、「リトミック」を行い、２年次の「オペレッタ」公演を集大成としてきた。しかし、学生の大半は、専門学校に進学して初めてピアノ演奏や音楽理論に取り組むこととなるため、実技と理論を結びつけることに困難を感じる学生が多いのが現状である。

そこで、本研究においては、本校の「こどもとリズム表現」「リトミック」を受講する学生へのアンケートから学生が音楽表現の授業に対し、どのような意義を見出しているのか。また、習得の過程において、どのような困難性を感じているのかを探り、今後の音楽表現授業の展開に役立てることを目的とし考察を行った。

研究の方法

1) **対象** 本学保育未来学科 平成 30 年度 1 年生（42 名）、2 年生（33 名） 回収率 100%

2) **実施期間** 2017 年 7 月・9 月（現 2 年生）、2018 年 4 月・7 月（現 1 年生）

3) **実施方法**

・現 1 年生においては、授業最終日にアンケート用紙を配布、回収。

- ・現2年生においては、保育園での実践授業（全2回）のそれぞれの授業終了時に記入してもらった。

研究内容・結果・考察

表1 授業科目「こどもとリズム表現」(1年生)

回数	履修主題	内容
1-5	リトミック	
6-7	オリエンテーション 音楽の基礎①	音価（休符）、譜表の読み方
8	音楽の基礎②	音価の復習
9	音楽の基礎③	強弱記号、バイエルを読み解く、拍子①
10	音楽の基礎④、歌唱	拍子②ボディパーカッション 指揮法（2拍子、3拍子、4拍子） 歌唱練習曲：「世界中のこどもたちが」
11	歌唱、合唱	腹式呼吸や発声のメカニズムを体感する 歌唱練習曲：「ともだちになるために」 「世界中のこどもたちが」（手話を合わせる）
12-14	楽器について学び、合奏の楽しさを 味わう	楽器の基本的な扱いを学ぶ 「It's a small world」を合奏する 「すてきなともだち」を合奏し、歌を合わせる

アンケート結果（授業内容については表1）

1. 「こどもとリズム表現」（前期）を受講して身についたことは何ですか？（複数回答可）

- ・音楽理論の知識 31名（74%）
- ・表現活動に対する意欲 22名（52%）
- ・表現する力 19名（45%）
- ・楽器演奏の技術 20名（48%）
- ・歌唱力 9名（21%）
- ・特に何も身につかなかった 0名

2. 授業を受講する前と後で変化したことは何ですか？（抜粋）

- ・音符の名前、長さが理解できた。
- ・見たことのない楽器を触ったり、演奏したりして音楽への意欲が高まりました
- ・音楽全部が苦手だったが、少し好きになった
- ・今まで持っていた知識も「保育する立場」になったらどのように伝えるかを考えながら学習するようになった

- ・ 楽器演奏を楽しく感じるようになった

3.あなたにとって、苦手だと感じることは何ですか？（複数回答可）

- ・ 音楽理論 17 名（40%） ・ 歌唱 14 名（33%） ・ 身体表現 11 名（26%）
- ・ 楽器演奏 19 名（45%） ・ グループ活動 10 名（24%）
- ・ 特に苦手なことはない 0 名

4.音楽理論で分からなかったことはありますか？（複数回答可）

- ・ 音価、音名 9 名（21%） ・ 拍子 12 名（29%） ・ 楽譜の読み方 11 名（26%）
- ・ 楽語 12 名（29%） ・ なし 11 名（26%）

5. 音楽理論について学んだことが、ピアノ演奏や器楽合奏に生かされていますか？（抜粋）

【はい】 40 名（95%）

- ・ 楽譜にかいてある用語の意味を確かめながらピアノを弾くようになった。
- ・ クレッシェンドやフォルテだけでなくドルチェなどの記号も意識するようになった
- ・ 正しい知識が増え、ピアノの楽譜が前よりも理解できるようになった
- ・ 楽譜の読み方が分かったので、一人で練習できるようになった
- ・ ヘ音記号が分かるようになった
- ・ 拍子が数えられるようになってリズムが取りやすくなった

【いいえ】 2 名（5%）

- ・ 学んだことを生かせるレベルにない ・ 苦手過ぎて取り入れるスキがない

7.あなたがピアノ演奏や器楽演奏をする際に一番困っていることは何ですか？

- ・ 1 曲の完成までに時間がかかってしまう ・ 楽譜の読み方
- ・ 音の長さが分からない ・ 記号が意識できない
- ・ 指が思っているように動かない ・ 他のリズムにつられてしまうこと
- ・ 速さを自分で変えてしまう ・ 休符があやふやになる
- ・ スラスラ読めず止まってしまうこと
- ・ リズムが分からなくなる、シャープやフラットがつくと混乱する
- ・ 練習で弾けたのに人前だと間違えてしまうこと

授業科目「こどもとリズム表現」アンケート結果の考察

アンケート結果から、7割以上の学生が授業を通して音楽理論が身についたと感じているが、4割の学生は音楽理論を苦手だと感じていることが分かった。その中でも拍子、楽譜の読み方、楽語が分からないと感じている学生は約3割にのぼった。

「こどもとリズム表現」の授業では、譜例1、Aのリズムパターンを手拍子やリズムスティックを使用して行う。音価を学習したものの、拍子については詳しく学習していない段階なので大まかになりがちではあるが、四分音符に対する八分音符の刻みと休符について体感する目的がある。この段階では特に困難もなく取り組むことができ、Aを様々な組み合わせで応用させていく。拍子を学んだあとにBのリズムパターンを学習すると、途端に学生の達成度は低下する。シンコペーションのリズムを体感するためには確実に拍子を感じる必要があり、それまで打点と拍点が一致していたものに比較して難易度は上がり、いわゆる裏拍を感じるができない学生が多かった。

譜例1



拍子を感じなくともBのシンコペーションのリズムを「グレープフルーツ」等わかりやすい言葉に置き換えてリズムを体感するとその時は納得し、ほぼ全員ができるようになる。しかし、前期12回目からの器楽合奏において譜例1のリズムを打楽器パートに加えたところ、Bのシンコペーションのリズムについて、学生からは「グレープフルーツのリズムだとは分かったが、どのくらいの速さなのかが分からない」という質問があり、そこで改めて拍子を取りながらシンコペーションのリズムをとる練習を行った。ここで重要なのは、音符を見て音価は分かっても、曲全体を見渡したときに、何拍子か、どのくらいの速さかを考え（または感じとり）、それを実際に行うことができるかどうか、ということである。初めて取り組む音楽理論、器楽演奏に頭を悩ませる学生も多い。しかしながら、演奏を行うときには頭で考えると同時に、内的なリズム感、いわば確固たる拍子感が学生本人になれば音価も生きてこないし、学んだことも生かされない。今年度、リズムパターンの復習と応用においては、その都度説明を必要としたため、例年と比較して音楽理論とそれに付随する器楽演奏の授業数を多く設定して対応することとなったが、今回の考察では、単に座学による音楽理論の学習にとらわれず、身体的・感覚的な部分での音楽能力の開発・伸長が、最終的には音楽理論の理解につながると仮定できるのではないかと考えるに至った。幼少期よりリトミックなどの音楽教育を受けることの効果があるように、学生においてもその効果があるのではないかと考えられた。

授業科目「リトミック」(1年生)

アンケート結果

質問内容ー今日の授業を通して学んだこと、感じたことを記述してください

2017年7月(リトミック授業5回終了時)ー1年生

表2<楽しい・意義があると感じた回答>

音楽に合わせて体を動かす	自分を表現できる
ビートを感じる	素直な気持ちになった
遊びのように楽しい	みんなと仲良くなれる
音楽に感動する	高齢者でもできる
声を出す	表現するには音楽の理解も大切
自分が楽しんでいる様子、姿を子どもに見せたい	子どもが自分を表現できる良い流れを作って欲しい
自然と笑顔になる	表現は何かと考えさせられた
テンポに合わせて歩くこと	表現したいという気持ちになった
音楽があると感情表現しやすい	難しいリズムにもチャレンジしたい
友達と手合わせすること	ピアノが欠かせない
障害のある人もできる	伝える感じが好き
自分をコントロールできる	動くことで体で覚える
友達が自分の気持ちを返してくれる	感性を磨ける
自己紹介できた	即時反応は楽しい
うたう、きく、ひく、うごくを良く知る大切さ	子どもに楽しみながら表現を身に着けて欲しい
集中して聞くとリズムがわかる	表現方法が多くなる
初めての仲間でも自己紹介できた	自分が動くと子どもも真似してくれると思う

表3<困難と感じた回答>

リズムをとるのが難しい	和音の種類やつながり方がわからない
歌が苦手	表現することが恥ずかしい
拍子の区別がつかない	歌やピアノは緊張する
右と左で別のことができない(手や足)	リズムの組み合わせができるのか
リズムの創作はできない	記譜方法がわからない
自分自身を出すのが苦手	心を開けない
音楽は苦手	楽譜がよめない

ピアノが苦手	拍子の感覚がつかめない
人前での発表が苦手	音痴

2017年9月(保育園での実践－5歳児24名 授業第終了時)－1年生

質問内容－今日の授業を通して学んだこと、感じたことを記述してください

表4<楽しい・意義があると感じた回答>

子どもは全身を使うと喜ぶ	音に合わせて子どもの動きもコントロールできる
年齢別の発達が分かった	こどもの興味がわかった
動作の決まりを理解していた	音楽で子どもの反応が良くなった
どんな音楽に反応するか分かった	真似することを楽しんでいた
子ども同士(仲間)の関わりがみられた	自分自身の感情表現にもつながると思った
頭・耳など部位を使うと喜ぶ	メロディーを聞き分けて動きも変化さ
変化することを楽しんでいた	声をしっかり出すことの大切さ
楽器の音の区別など思ったよりできることが多い	2分音符のリズムを象さんですると上手にできた
スキップができていた	

表5<困難と感じた回答>

ホールの広さをうまく使うのが難しかった	こどもが思い通りに動いてくれなかった
子どもを見ながらのピアノ演奏は難しい	音楽を無視して走り回る子供がいた
楽譜をパッと見てわからないのでどこを弾いているのかわからなくなった	自分自身、2拍子、3拍子がよく理解できていないので切り替えがうまくできなかった
指導案の計画通りにいかなかった	自分が楽しめないと子どもの動きも堅い
楽しめない子どももいるんだと知った	あまり話ができなかった
子どもの様子を見ながら活動続ける難しさ	音痴
人前での発表が苦手	

2018年4月(リトミック授業初回終了時)－1年生

質問内容－今日の授業を通して学んだこと、感じたことを記述してください

表6<楽しい・意義があると感じた回答>

運動部のトレーニングと酷似していた	子どもの能力は無限だ
色々な楽器を使用してみたい	子どもに合った指導を見つけない
保育者の表現力が大切	感性を養える

保育者の感情や動作を子どもはよく見ている	子どもと一緒にしてみたい
楽しかったのでピアノを頑張りたい	ペアするのが楽しかった
音楽表現は年齢を問わないと思った	沢山の音楽で遊んでみたい
子どもと一緒に遊びたい	友達作りのきっかけになる
様々な活動を考えてみたい	実習に積極的に取り入れたい
脳の活性化、記憶力も高まる	恥ずかしがらずに表現したい
ピアノの音をしっかり聞かないと一緒の動きができない	自分で動いてみて集中力や即時反応力がつくと感じた
表現力をつけたい	リズム感、集中力がつく
自然と笑顔になれる	メリハリが大事
体を動かすのが苦手でも音楽があるとできる	リズムに合わせて動くとき自然に楽しめる
伝えるということは大切	音が鳴るのを集中して待つのがわくわくした
声を出してすると楽しい	簡単な動き、シンプルな道具も音を付けると楽しい

表 7<困難と感じた回答>

感性が伝承すると聞き少し怖くなった	身体運動がうまく理解できないので自分でできるか不安
-------------------	---------------------------

質問内容ー今日の授業を通して学んだこと、感じたことを記述してください

2018 年 9 月(授業第 5 回目終了時)ー1 年生

表 8<楽しい・意義があると感じた回答>

音楽と動きが組み合わせやすい	伴奏があるだけで色々な遊びができる
コミュニケーションが取れる	触れ合いができる
発想が豊かになる	インターネットでも調べてみたい
音の長さを象やカニに例えるとわかりやすい	声を出すと楽しい
身体全身を使って物や生き物を表現することで子どもの感性も芽生える	色々な人が色々な魚になったりして楽しかった
自分が思い切って動くとき回りもつられる	想像力・発想力を引き出す
リズムに乗って動くとき歌も覚えやすい	リズムは身体を使って表現する方が簡単
自分でリズムに合う動物や物を考えてみたい	表情や声の変化が楽しい
活動内で自分の名前が呼ばれるのが嬉しい	魚や動物になると色々な表現ができる
わらべうたは何もなくとも遊べる	

表 9<困難と感じた回答>

音の長さの理解ができていない	集中して聴くことが難しい
恥ずかしい気持ちがある	動きに音楽合わせることの難しさ
ピアノのリズムで動きを変えることを自分でできるのだろう	音符を見ても長さがパッとわからない
色々なことの子どもへの伝え方	全身で楽しさを表現することは難しい
動きを大きくするのが難しい	

授業科目「リトミック」アンケート結果の考察

アンケートの結果(表2～表9)から学生は、授業を通して「音楽表現」の重要性を感じていた。表6の回答からは、子どもたちに「リズム感や集中力がつく」「友だちづくりのきっかけになる」「感性を養える」など、多方面から様々な能力を付けることの期待ができる活動として「リトミック」を捉えていることがわかった。しかし、反面、実際に自分自身が保育園において1人でリトミック指導を行うためには表3「リズムをとるのが難しい」「和音の種類やつながり方がわからない」「拍子の区別がつかない」「楽譜がよめない」「拍子の感覚がつかめない」により、拍子理解の不十分さや読譜力の欠如を自覚し、困難と感じていることも確認できた。音楽教育の基本となるピアノ演奏能力やソルフェージュが重要であるにもかかわらず自身の演奏技術や音楽理論の知識などが、身につけていないという現状があった。例えば「音楽表現活動」として保育園で「リトミック」を行う場合、目的やねらいに合わせた活動を選択し指導案を作成する。即時反応の活動を導入としてビートを刻む活動、そこから2拍子の感覚を身につけるという活動を行う場合、ふさわしい曲を選択し、動きを促すために演奏にはアクセントを付け、拍子感を出し、子どもがフレーズを感じられるように演奏する必要もある。子どもの様子を見ながらの即興演奏が望ましいが、学生が実施するのは難しい。そのため、あらかじめ子どもの姿を想定して曲を準備しておくだけでなく、曲の理解、規則性の理解も必要となる。実際に学生の保育園でのリトミック実践では、表5「自分自身、2拍子、3拍子がよく理解できていないので切り替えがうまくできなかった」「楽譜をパッと見てわからないのでどこを弾いているのかわからなくなった」ことから、不自然なタイミングで曲を止めてしまったり、フレーズが子どもによく伝わらないということもあった。また、子どもを見ながらピアノを弾けないために、子どもたちとまどってしまうこともあった。このことから、学生は保育者として音楽教育を通して子どもの表現力を伸ばしていくためには今後、ピアノ演奏などの音楽的技術と知識(楽典)の力の定着が必要と考えられた。

おわりに

保育者は子どもの特性や環境を理解し、領域「表現」における「音楽」を通して子どもが自己表現できるように様々な活動を行うことが求められる。作曲家の峯陽は著書のなかで「音楽を保育の中でやるからには、音楽っていいなと子どもたちに思ってもらいたいものです。自信がないものには、子どもたちはのってきません。そのためには保育者が自信をもってやることです。よく準備ができていないのも、ダメです。『先生のピアノ伴奏が入るととてもうたいたいにくいよ』というときには、ピアノはやめた方が良いでしょう。みんなでうたっていて、それに楽器の伴奏が入ると、うたがはずんで、もっと楽しくなるから、伴奏というのです。楽器の指導にしても、先生が吹きこなせないでは、ハモニカのおもしろさを子どもに教えようがありません。」²⁾と述べている。それは、ピアノ演奏・伴奏にとどまらず、器楽合奏や、リズム遊び、わらべうた、おゆうぎ、劇など、様々な場面で子どもたちの歌唱力・表現力をさらに伸ばすような演奏をすることであり、さらに手本となるような表情豊かな歌唱、正しいリズム認識と拍子感を持った指揮（合図）、また音色の探求など、確かな音楽性を身につける必要があるということである。しかしながら、「こどもとリズム表現」「リトミック」での意識調査を考察すると、演奏技術や音楽理論などが、十分に学生の身につけていないという現状がある。

厚生労働省が示す『「表現」感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする』³⁾のために、学生は基礎的な音楽理論の知識、技術の早期習得が必須であるため、今後、本研究での学生の意識調査をふまえ、学生の実情に即した指導を行っていきたい。

引用文献

- 1) 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局. (2018). 保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容(p. 28). 厚生労働省.
- 2) 峯陽. (1981). 保育のための音楽入門：うたいたくなる子育てを(pp. 119-120). 青木書店.
- 3) 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局. (2018). 保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容 (p. 28) . 厚生労働省.

参考文献

- Montessori, M. (1997). モンテッソーリの教育:子どもの発達と可能性(林信二郎, 石井 仁 訳). あすなろ書房. (Montessori, M. *WhatWhat You Should Know About Your Child.*)
- 時実俊彦. (1989). 脳を育てる. 三笠書房.
- 花原幹夫. (2006). 保育内容 表現. 北小路書房.

